

高尿酸血症と高血圧

国家公務員共済組合連合会虎の門病院
循環器センター内科

磯長 祐平

● 国家公務員共済組合連合会虎の門病院
循環器センター内科/集中治療科

桑原 政成

はじめに

近年、糖尿病や脂質異常症などに代表される代謝異常を合併する高血圧患者の割合が増加しており、脳・心血管疾患の予防のために、より厳格な降圧管理の必要性が提唱されている。高尿酸血症も高血圧に高頻度に合併することが知られており、尿酸と高血圧に関する多くの研究データが蓄積されてきている。

この度、わが国の高尿酸血症・痛風治療ガイドラインおよび高血圧治療ガイドラインが2019年度版としてそれぞれ改訂となった。本稿ではガイドライン改定の内容も踏まえつつ、高尿酸血症と高血圧の疫学・病態生理・治療について解説を行う。

1 高尿酸血症合併高血圧の疫学研究

高尿酸血症と血圧の相互の関係については、これまでの疫学研究で明らかになってきている。国内の高血圧専門外来において、高血圧患者が高尿酸血症(血清尿酸値7.0mg/dL以上または尿酸降下薬服用者)を合併する頻度は、男性で40.6%、女性で8.6%と高かった¹⁾。

国内の検診受診者82,722人を対象とした横断研究では、年齢やbody mass index(BMI)、脂質異常症、糖

尿病、喫煙、推定糸球体濾過率を調整した上で、血清尿酸値1 mg/dLの上昇は、高血圧の合併リスクが男性で18%、女性で25%上昇すると報告されている²⁾。Osaka Health Surveyでは、35歳から60歳までの日本人男性で血圧140/90mmHg未満の6,356名を対象として、5~16年間追跡したコホート研究で高血圧新規発症のリスクを検討した³⁾。結果は、血清尿酸値6.2mg/dL以上の群では、血清尿酸値0.6~4.2mg/dLの群と比較し、約2倍の高血圧新規発症のリスクを認めた。本研究を含む国内外11研究のメタアナリシスでは、高尿酸血症を有する患者における高血圧発症リスクは1.41と有意に高く、1 mg/dLの血清尿酸値の上昇により高血圧発症リスクが13%上昇すると報告されている⁴⁾。最近の研究で、高血圧や糖尿病、脂質異常症、肥満、慢性腎臓病などの合併疾患をもたない無症候性高尿酸血症であっても、高血圧の新規発症リスクになることが報告された(図1)⁵⁾。さらに血清尿酸値高値は、前高血圧(120/80mmHg<140/90mmHg)から高血圧に進展する独立したリスクとなることが示された。本研究では、3,584人の前高血圧患者を対象とし、5年間での高血圧への進展リスクを検討した。結果は、各種因子を調整後も血清尿酸値が1 mg/dL上昇するごとに、15%の高血圧への進展するリスクが上がることを示さ